

3/24-1

東京電力

情報提供

3/24/2011 12:39:47 AM

4枚

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 3 月 23 日 (水) 18:00~19:10

場所：東京電力本館 1 階 AB 会議室

先方：記者約 70 名 (カメラ 11 台)

当方：武藤副社長

原子力設備管理部

工務部

広報部

配布資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて (3 月 23 日午後 5 時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ (3 月 23 日午後 2 時現在)
- ・ 【別紙】福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 【別紙】福島第二原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 福島第一原子力発電所 1~3 号機プラント状況
- ・ 福島第一原子力発電所 1~3 号機 原子炉圧力容器周辺温度
- ・ 電源復旧工事写真・図

主な質疑応答

Q. 1F1 の圧力容器の周辺温度が 400℃になった理由とベントの必要性は。また、設計温度である 302℃との関係は。

A. 注水量を増やした結果、300℃台まで低下した。注水により圧力が上昇したが、ベントを行う状況にはない。

Q. 線量が高くて 1F3 の復水移送ポンプ設置の見通しがたたないとのことだが、1、2、4 号機についてはどうか。

A. 注水のルートはいくつかあるので、設置できる可能性のあるところについて、一つ一つ線量を確認しながら進める。

Q. 1F3 の黒煙の作業への影響は。

A. 作業員を退避させたため、ポンプの健全性の確認はできていない。注水用タンクへの水入れを行った。

Q. 1F2 のタービン建屋において 500mSv の放射線量を確認したとの情報の事実関係は。

A. 実際に測定した訳ではない。作業員の線量計の測定値の上昇から 500mSv の線量があると判断したことがあるのは事実だが、定量的な確定はできていない。

9/24/2011 12:39:47 AM

Q. 東京の水道水から放射性物質が検出されたことをどう受け止めているか。

A. プラントを安全安定な状態にするのが最優先。一般の飲料水や生活用水としては問題ないが、乳幼児が長期間摂取し続けると影響があることから、万一のために摂取の制限を行ったものであると認識している。

Q. 1F3の黒煙の原因は。

A. 原子炉建屋の東側からの発煙であること以上は確認できていない。安全のため作業員は退避させている。徐々に収まってきている。モニタリングの数値に変化は見られない。

Q. 乳幼児への影響について、謝罪の気持ちが全く感じられない。

A. ご心配をおかけしたことについてお詫びしたい。

Q. 1F3の使用済燃料プールの状況は。

A. 1F3の使用済燃料プールの冷却系に仮設ラインを設置し2時間で35トンを注入した。

Q. 1F4のSFPに注水したコンクリートポンプ車の2台について、今後の活用方法は。

A. 1F4への注水はコンクリートポンプ車で実施。1号機、3号機への実施も検討中。

Q. 1F3のPCVには亀裂が発生しているのではないか。

A. 可能性については否定できないが、圧力の推移から大きな損傷があるとは考えていない。

Q. 1号機は炉内の圧力が高まっているがドライベントする可能性はあるのか。

A. 必要に応じて判断する。

Q. 放射整備物質の拡散シミュレーションの結果は公表しないのか。

A. 放射性物質の放出量が把握できていないため、意味のあるシミュレーションはできない。

Q. 先日ドライベントを実施しようとした時よりも温度が高いがドライベントを実施しないのか。

A. ベントの実施については、格納容器の圧力で判断する。現時点は必要ないと考えている。

3/24/2011 12:39:47 AM

Q. 1F1の炉内の温度は。

A. 14時時点で330℃強まで下がってきている。

Q. 何時から1号機の原子炉への注水量を増やしたのか。

A. 02:30に消化系から給水系に切り替えた。

Q. 1～3号では海水を原子炉へ注入しているが、塩分濃度が上昇することで何か影響はでてこないのか。

A. 淡水の方が冷やすにはいいので検討している。現在、ダムから海水の替わりに取水できるように工事を進めている。3号機から始められると聞いている。

なお、塩分濃度が高くなると腐食が考えられる。早期に淡水の注入に切り替えていきたい。

Q. 東京都の浄水場でヨウ素が検出された件について、一時的であれば飲んでも大丈夫なのか。どの程度なら飲んでも大丈夫なのか。半減期の8日たったなら大丈夫か。

A. 長期間にわたり飲み続けた場合において万が一のための対応であるが、短期的であれば、直ちに問題とはならない。なお、ヨウ素の半減期は8日。

Q. 1号機の2:30からの給水系による原子炉への海水の注入は続いているのか。

A. 続いている。

Q. 3号の海水の注水は原子炉か。

A. 使用済燃料の冷却のための海水の注入。

Q. 1F1圧力容器の設計圧力は302度と説明しているが、100度高い温度になった理由は。

A. 原子炉の中にある燃料の崩壊熱で上昇したものと考えている。

Q. アクシデントマネジメントと災害防止計画について、シビルアクシデントの想定が甘かったのではないか。

A. 今回は歴史的、未曾有の津波に襲われた。様々なことが起きても対応できる手順を整理しており、今回もできる限りの努力をした。

ともかく今はプラントを安全な状態にすることに全力を傾注しているが、今後の課題として検討していきたい。

Q. 1、2号機ではRHRを復旧させる見通しは。

A. 注水元のタンクは準備するとともに、原子炉に注水するポンプを復旧していたが、黒煙で中断した。

Q. 圧力容器の温度の限界値は。

A. 現在、確認されている温度（400度）の範囲では問題ない。

閉じこめるといふ機能を守ることが大事であり、その観点から、圧力の推移をみる必要がある。PCVについては圧力が853kPaになったらベントを実施する

と判断する。圧力容器の温度については、大きな同容器の中ですべての箇所の温度を計測できるものではない。圧力容器の融点は1000度。設計圧力は3.02度。今後、長い期間使用するのであれば、450度、500度で劣化が進むが、短時間では500度くらいでもろくなるモードとなると考えている。

以上

3/24 - 2

東電

2枚

プラント状況(本店レク)議事メモ

日時：平成23年3月23日(水) 20:45~21:20

場所：東京電力本館1階AB会議室

先方：記者約50名(カメラ11台)

当方：原子力運営管理部

福島第一原子力発電所

広報部

配布資料：

- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第二報)
- ・福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について(第三報)

概要：

Q. 採取地点が変わっているが、地点を減らすのか。

A. 昨日までの採取ポイントは、1Fからの距離が同じくらいなので、その地点の代わりに北の地点を増やしたもの。

Q. 文科省のデータは見えないのか。

A. 測定はこれからだと聞いている。

Q. シミュレーションは公表しないのか。

A. システムそのものはある。しかしながら、今回は地震により電源が喪失し、排気筒モニターの数値もとれず、入力するデータが得られなかったため。

Q. 核種を全て公表するというものではなかったのか。

A. 昨日、50数種類と申し上げたが、実際は100数十種類の核種を計測している。対象核種から検出されたものを表にしてまとめたいと考えている。

Q. 1F内の採取場所を変更したのか。

A. 19, 20, 21日は事務本館北で採取していた。構内の様々な地点で集めようと考えて変更したもの。今後、敷地境界等も採取したり、また元の場所でも採取したいと考えている。

Q. 文科省のデータを待つようなことを言っていたが、東電が率先してやらないのか。

A. 今回も北のポイントに変更したり等、弾力的に考えてまいりたい。

Q. 本来なら企業の席にとして、積極的に公開すべきでないか。

A. 引き続き、検討してまいりたい。

Q. プルトニウムについては調査しないのか。

A. プルトニウムの核種分析は難しい。ただ、 α 核種がどれくらいあるかについて測定することを検討しているところ。

Q. 炉も落ち着いてきているようにも思えるが、これ以上の放射性廃棄物の排出はないと考えていいのか。

A. プラントはまだ安定しているわけではないので、引き続き、サンプリングを進めるなど、注視してまいりたい。

Q. 拡散のシミュレーションについて、以前は持ち合わせているのが前提で、公表するのかもしれないのかを検討すると言っていたが、シミュレーションはあるのか。

A. 再度、確認する。

Q. 先ほどは、シミュレーションしているが意味がないと説明していたが、どうか。

A. 確認する。

Q. 先ほど武藤副社長が今回、一時的に原子炉の冷却機能が喪失したと発言していたが真意は。

A. 確認する。

Q. 1～3号機のRHRポンプを健全性確認ができない理由は。

A. 確認する。

Q. もともと、地元の漁協に放射性物質の拡散についてデータなどを示していないのか。どのようなデータを提供したのか。

A. 確認する。

Q. プルトニウムについて調査しないと決めていたのに、調査することとした理由は。

A. 確認する。

Q. シーベルト換算して公表することについて前向きに検討して欲しい。

A. 検討する。

以上

3/24-3

東電
1枚プラント状況(本店レク) 議事メモ

日時：平成23年3月23日(水) 23:30~23:50

場所：東京電力本館1階AB会議室

先方：記者約50名(カメラ11台)

当方：原子力設備管理部
広報部

配布資料：

- ・福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ(3月23日午後9時現在)

Q. 拡散シミュレーションは本当に行っていないのか。

A. 電源喪失により、排気筒モニターのデータが計測できなかったため、シミュレーションできていない。

Q. 武藤副社長が発言した「意味がない」ということは問題ではないか。

A. きちんとお伝えできていなかったとしたらお詫びするが、電源喪失により、排気筒モニターのデータが計測できなかったため、シミュレーションできていないということをご理解いただきたい。

Q. 国が実施しているのに、東電ができないということはあるのか。本当にシミュレーションしていないのか。排気筒モニターの数値がなくてもやるべきでないのか。

A. 改めて、確認する。

Q. “一時的に”冷却されていなかったという認識は変わらないようだが、現在のような状況で冷却できていると言えるのか。認識が甘いのではないか。

A. そのようなつもりで発言してわけではない。

Q. ベントの準備はしているのか。

A. 今日の未明に旧水系に変更して圧力もあがったので、流量をしぼって圧力上昇を抑制している。

このように、温度と圧力の関係をみながら、ベントの準備を進めるがやらずにすむようにコントロールしていきたい。

Q. 3号機のデータの整合性がとれないが。

A. 今後注意深く見守っていきたい。

Q. 5号機の残留熱除去系の海水側ポンプ停止について、原因は。

A. 急遽調達したものであったり、工事も急な工事であったこともあり、本来の信頼性の高い原子力設備ではないため、様々な要因が考えられる。

Q. 3号機の黒煙の影響で、作業が中断したが、今後の見込みは。

A. 現場状況をみながら、判断していくこととなる。

以上